

**平成30年度 第1回 石巻地域産業人材育成・定着推進会議
参加者発言要旨及び意見交換等概要**

開催日時：平成30年9月26日（月）午後2時～

開催場所：宮城県石巻合同庁舎1階 大会議室

1 会議の趣旨

「石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議」の部会として、石巻地域の学生・生徒の「産業人材としての育成」、「地元企業による雇用」、「就職後の定着」に向けた具体的な取組を検討するため開催。本日は、本年10月30日（金）開催予定の「プラットフォーム会議」（以下、「親会議」）に向け、各機関の今年度の取組について情報共有・意見交換を行うもの。

2 出席者

【産業】

石巻商工会議所	雇用創出・人材確保担当調査役	千葉 孝
東松島市商工会	経営支援課長	高橋 広史
女川町商工会	主査	笠原 悠平
一般社団法人みやぎ工業会	ものづくり企業統括コーディネーター	八島 和彦
	ものづくり企業コーディネーター	飯盛 良拓

【教育】

宮城県石巻工業高等学校	教諭	荒井 章展
宮城県石巻商業高等学校	教諭	志茂 寿朗
宮城県石巻北高等学校	教諭	山本 浩人
宮城県石巻北高等学校飯野川校	教諭	大橋 孝幸
宮城県石巻北高等学校飯野川校	連携コーディネーター	本木 由紀子
宮城県水産高等学校	教諭	油谷 弘毅
宮城県石巻西高等学校	教諭	熊谷 亜沙
宮城県東松島高等学校	教諭	磯部 洋
石巻市立桜坂高等学校	教諭	小山 信
宮城県立支援学校女川高等学園	教諭	鈴木 瑞穂

【行政機関】

石巻公共職業安定所	統括職業指導官	後藤 慶志
石巻市産業部商工課	主事	佐々木 拓弥
東松島市産業部商工観光課	商工企業推進班長	葉原 正博
	主事	砂野 地洋
宮城県立石巻高等技術専門校	副校長	平間 弘和
宮城県教育庁高校教育課	キャリア教育班 主幹（指導主事）	吉田 浩二
宮城県東部教育事務所	次長（社会教育主事）	松川 忠孝
宮城県経済商工観光部	産業人材対策課 企画班 主任主査	前場 大二
（事務局）東部地方振興事務所	【座長】地方振興部長	石田 政信
	地方振興部 次長（総括担当）	荒井 雅秀
	商工・振興第一班 次長兼企画員（班長）	遠藤 佳貴
	【担当】技術主査	豊川 高弘

3 参加者発言要旨

報告事項(1) 石巻地域の雇用情勢について(石巻公共職業安定所)

- ・ ハローワーク石巻管内の雇用情勢(平成30年7月)について。有効求人倍率は1.66倍で、昨年より若干減少した。県内では築館・仙台・大和に次ぐ、4番目の高さとなった。平成24年8月以降は1.0倍を越えており、昨年は2.0倍を越えることもあったものの、最近では減少傾向にある。有効求人数は、今まで5千人を越えていたが、今年5月から5千人を割っている。また、有効求職者数も、前月より150人程度減少しており、減少傾向にある。
- ・ 求職・求人バランスは、職種で異なっており、全国的な人手不足である建設・看護・介護・保育に加え、当地域では保安・警備、水産加工の求人も不足している。
- ・ 人手不足の企業に働きかけて、月3～4回職場見学会を実施している。参加した求職者が、応募に繋げる施策に力を入れている。
- ・ また、石巻市・女川町と協働して、巡回相談を延べ3回開催した。求職参加者はまだ少ないが、今後も継続して開催する予定である。
- ・ これらのほか、県からの委託事業であるが、サポートセンターと連携して、合同企業説明会を実施する。女川町内では本日、実施中である。

報告事項(2) 各機関における産業人材育成・雇用・定着に係る平成30年度取組について

① 石巻公共職業安定所

- ・ 5月に求人説明会を開催し、求人票の書き方・注意事項等を指導した。併せて、7月の合同企業説明会において、インターンシップ受け入れや、職業講話の実施の可否に関するアンケートを実施した。
- ・ 7月の合同企業説明会の参加者について、企業数は67社と昨年と同数であるが、参加生徒は282人と、昨年より120人程少なかった。
- ・ 10月には、合同就職面接会を実施予定である。今年度は古川地区で開催しないため、仙台・石巻のみで開催予定である。石巻は100社の申し込みに対し、約60社が参加する。水産加工・介護・製造業が中心である。
- ・ 平成31年1月以降は、学卒採用だけではなく、一般求人を未就職の生徒に案内する予定。
- ・ 平成31年卒業の産業別求人受理状況は、7月末で788人(昨年より5.8%増)。製造業のうち食品製造業が突出しており。次いで、機械関連の製造業が多い。次に、介護医療、卸売業・小売業の求人が多い。

② 石巻専修大学(石巻専修大学:欠席につき事務局から報告)

- ・ 昨年度からの新カリキュラムである「いしのまき学」に加え、2年生対象の「キャリア開発」を開始した。産業社会の現状を知り、社会人としての自分について考えることをテーマとしており、地域の企業人を講師に招き、講話を実施している。
- ・ 学生の進路状況と大学の進路支援の取組について。平成31年3月卒業予定者309名のうち就職希望者は260名(卒業生の84.1%)、うち公務員・教員を除く民間就職希望者は219名(卒業生の70.9%)となっている。
- ・ 就職希望者の内定者は8月末現在で161人(卒業生の61.9%)、民間企業希望者のみでは73.5%。昨年と同様に、平成27年度から平成28年度に比べて、高い内定率となっている。
- ・ 県内・石巻地域への就職状況。例年、就職者の4割から5割が県内就職となっており過去5年ほどは、就職者の4割強が県内就職。石巻地域への就職は、例年1割程度であるが、就職者のうち、石巻圏域出身者が6割を占めている。

③ 管内高等学校（出席各高等学校）

イ 宮城県石巻工業高等学校

- ・ 本校は工業高校であるため、各コースで1年生には、進路ガイダンス・社会人講話等を実施して、生徒の内面から意識付けをしていく。また、地元企業の協力を得て、ものづくり技術習得指導を受けるほか、小中学校への出前講座により、生徒自身が教えることで自身のスキルを見直している。2年生では、夏休みを活用してインターンシップを実施。また、ものづくりコンテストに向け、企業から指導を受けている。3年生では、進路決定に向け、外部講師による面接指導などを実施している。その他、1年次から通年で、企業見学を実施している。

ロ 宮城県石巻商業高等学校

- ・ 企業から協力を得て各種授業を展開している。1学年では、企業人による職業講話をしている。2年生ではインターンシップをほぼ全員が体験し、計40社から50社に受け入れていただいている。3年生では、就職前の職場見学や、企業人による模擬面接を実施している。
- ・ その他、フォローアップ講座として、あいさつ・身だしなみ・身のこなし・服装等の指導を外部講師から受けている。

ハ 宮城県石巻北高等学校

- ・ 本校は総合学科であるため、1年次のときから、10年後20年後の自分の姿を予想しながら目指して欲しいと思い、指導している。1年次は基本的なこととして、自分自身と世の中・社会を知る機会を与え、2年次はより実践的に、翌年度の進路決定に向け、具体的な目標を持たせる内容にしている。
- ・ また、1年次から夢をもって生活するよう指導しているが、等身大の先輩や、本校OB等の先輩達が、社会人としてどのような目標・やり甲斐を持っているかを知ってもらい、高校生活を具体的な目標を持ったものになりたいと考えている。
- ・ 今年度は東部地方振興事務所に協力いただき、新規で、2年次向けに聴く力を養うコミュニケーション講話を実施した。また、3年次向けに社会人講話「進路決定とこれからの高校生活」と題して、8割の生徒が進路決定している10月下旬に、社会人から講話いただく予定である。

ニ 宮城県石巻北高等学校飯野川校

- ・ 本校の特徴的な取組として、外部の支援団体の協力を得て実施している。3～4年次対象の「声出し・話し方セミナー」では、就職を控えた生徒の意識の高まりを感じる。次に、ものづくりに興味がある生徒を対象に、石巻高等技術専門校の協力をいただき、エンジン分解・組立、金属加工作業、木工品製作等を体験することで、ものづくり企業への理解促進を図っている。これらのほか、ステップアップインターンシップとして、NPO団体等と連携し、就労が困難な生徒に対して、早い段階から就労体験やソーシャルスキルトレーニング（対人行動を習得するための訓練）の機会を与えている。

ホ 宮城県水産高等学校

- ・ 本校は水産高校のため、就職先が特殊である。就職希望者のうち、船舶関連が約半数となっている。今年度、特に注力しているのは3年生向けの分野別ガイダンスであり、この授業が就職希望先を決める、最後の一押しとなっていると感じる。また、2年生では9月のインターンシップを通じて、1年生は石巻市内の水産海洋関連企業を見学することで、将来の職業を考える機会を与えている。

ヘ 宮城県石巻西高等学校

- ・ 本校は普通科高校であり、進学希望者が多い。就職希望者は例年30人前後で、今年の民間就職希望者は20名弱となっている。
- ・ NPO法人の協力を得て、9月25日に職業人インタビューを実施。30人程の社会人を招

き、1年生5人ずつが各社会人から座談会形式で仕事を語っていただいた。生徒からは勉強になったという意見が多く寄せられている。

ト 宮城県東松島高等学校

- ・ 本校は単位制高校である。自己実現に向けて段階を踏んだセミナーを実施しているほか、外部講師を招いた各種講話・指導を実施している。
- ・ 授業は1校時～12校時まで連続してあるため、放課後という概念がない。そのため、進路指導は生徒の空き時間を見計らい、個別に実施している。丁寧かつ粘り強く指導することが重要と考えている。

チ 石巻市立桜坂高等学校

- ・ 取組は昨年までと大きな変化はないが、各事業所からの協力の幅が広がっていると感じる。1年生はまちなかポスタープロジェクト（地元商店街を知り、各店のポスターを作成）、2年生はさくらプロジェクト（企業人からの講話や職場体験等）、3年生は市役所プロジェクト（市役所に出向き、与えられ課題の対応策を検討するなど）を実施している。
- ・ 本校全体の3分の1の生徒は就職希望者であり、その多くが石巻管内への就職を考えている。石巻という地元を理解し、将来どのように貢献できるかを、3年かけて学ばせている。

リ 宮城県立支援学校女川高等学園

- ・ 本校は平成28年に開校し、来年3月に初の卒業生が誕生する。軽度の知的障害を有する生徒が対象で、100%の就職を目指している。
- ・ 理念として、社会的・職業的に自立できる生徒を育成することを掲げている。社会的には、生活面の自立に向け、3年間の寄宿舎生活で学んでいる。職業的には、3種類のコース〔食品製造、福祉、サービス（清掃・接客等）〕に分かれたカリキュラムを組んでおり、専門的な職業スキルを身に付けている。また、年2回の産業現場等における実習を実施し、生徒のマッチングを図りながら、企業様の理解を得て、長く働き続けることのできる環境を整えている。

④ 東部教育事務所

- ・ 学校教育として、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育てることや、志教育を推進している。中学校では職場体験や地域行事への手伝いなどが挙げられる。総じて、学校は今まで支援を受けている側であったが、地域企業やNPO法人との連携・ボランティア活動など、これから地域に出て行くようになる。
- ・ 社会教育としては、子育て中の父母の不安を解消し、地域定住を推進に向けて、「子育てサポーター養成講座」を開催する。20数個のプログラムを用意しており、それを実践するチーム「家庭教育支援チーム」を設置する。また、学校が企業と連絡を取って活用できるよう「石巻地域産業マップ・ハンドブック」を石巻の全小中学校に配付した。
- ・ 今年度は公民館訪問に注力している。地域の公民館が地域づくりの拠点であるため。公民館を活性化し、学校と連携し、自分達の地域の良さを知るために大切である。
- ・ 地域と学校の目指す在り方は、生涯学習の一環として、学校教育・家庭教育・社会教育が一体となって子ども達を育てる仕組みであり、今後必要とされる。このほか、コミュニティスクールの取組も始めている。

⑤ 石巻市

- ・ ハローワーク石巻と共同で、次の2事業を今年度新規に取り組んでいる。①本市6総合支所において求職者を対象に、出張相談会を実施。今年度9月から開始し2ヶ月で一巡する予定である。②介護職員の不足が背景にあるため、市内高校を訪問し、介護職を職業選択の一つとしてもらえるよう、啓発活動を行っている。

⑥ 東松島市

- ・ 直近では、市内企業における工場増設により、二十数名の新規雇用が図られた。また、ハローワーク石巻と共同で、誘致企業の労働力確保に向けて職場見学会を実施したところ、7名が参加した。

⑦ 石巻商工会議所

- ・ 本会議所においては、県東部地方振興事務所、ハローワークにも参加していただき、今年7月に雇用推進委員会を立ち上げた。事業者にとって雇用情勢は厳しい現状であるが、できることをやっていきたい。
- ・ 具体の事業は、人材確保に向けた企業説明会（ハローワークと別枠）や、各高校の指導担当者との懇談会を開催し、御意見を頂戴しながら進めたい。また、地元の小中学生を対象に職場見学・現場体験会を行い、地元の子どもが地元就職する枠組みを繋げたい。さらに、離職も大きな課題であるため、就職後の定着支援も検討している。
- ・ このほか、高校の意見も踏まえ、本会議所の会員企業情報を分かりやすく紹介できるツールを作成予定としている。

⑧ 女川町商工会

- ・ 当商工会は、各団体と連携して人材育成・確保の支援を行っている。
- ・ また、女川町、石巻サポートセンター、ハローワーク石巻と協力して「おしごと説明会」を開催し、町内の求人情報を紹介した。
- ・ そのほか、小学生を対象に「女川商売塾」を開催し、子ども達が実際に店舗経営の体験機会を提供している。勉強会7回に加え、出店販売2回のプログラムとしており、地元の商店で取り扱っている商材をベースに実施している。

⑨ 石巻高等技術専門校

- ・ 普通課程は、1年間から2年間の訓練課程で職に就こうとする人に技能・技術を身に付けるところ。金属加工科は応募者が少ないが、製造業に人材を輩出しているため、今後強化していきたい。
- ・ 今年度は、桜坂高校のさくらプロジェクトに協力し、金属加工科・自動車整備科の女性とのディスカッションの機会を設け、技能技術の分野で女性が活躍できる環境があることを伝えていただいた。北高飯野川校の生徒に來校いただき、今年で4回目であるが、体験学習を実施した。
- ・ 金属加工科は進路が多様で、様々なものづくり企業に就職できる。進路が幅広いため、今後の課題として、修了後の就職先を丁寧に説明していきたい。また、卒業生の中から、今年の溶接技術競技の全国大会に出場する者もいる。こういった活躍している人の紹介も進路選択の参考になるかと考えている。

⑩ 一般社団法人みやぎ工業会

- ・ 宮城県内のものづくり企業の人手不足が課題となっている。また、就職した新規高卒者における3年以内の離職率は40%超と高い。これを改善すべく、県では「宮城県ものづくり企業コーディネーター設置事業」を今年度から実施し、その役割を担っているのが、みやぎ工業会である。
- ・ 当該事業では、地元企業・学校を訪問し、企業と学校を結ぶ、コーディネートすることを目的としている。
- ・ 現在まで延べ22社を訪問し、経営者からは人手不足で困っている。学校からは地元でこういった会社があるのか分からないという意見があるため、工場見学会を実施した。今後も継続希望の声が寄せられ、先生方にとって、直接、事業者の声を聞ける良い機会になっている。

⑪ 石巻地域産業人材育成プラットフォーム {事務局（東部地方振興事務所）}

- ・ 平成30年度「石巻地域産業人材育成プラットフォーム」の取組の4本の柱立てについて、取組状況と今後の予定を報告。

「1 人材育成・雇用・定着に関する情報共有と取組の充実」

- ・ 会議を通じ、各機関の取組を共有し、取組充実を図るもの。本日が今年度第1回目の部会にあたる。
- ・ 今後の予定：10月30日に今年度第1回目の親会議にあたるプラットフォーム会議を開催する。また、来年1月に第2回目の部会、来年2～3月に第2回目の親会議を開催予定としている。

「2 地域一体となった職業体験等、産業人材育成の取組の推進」

(1) 協力企業・団体等と学校のマッチング推進

- ・ 地元企業・団体等における職場体験学習の受入体制等を掲載した冊子「産業人材育成・定着協働者ガイド」(事務局作成)により、職場体験学習を希望する高校・大学と受入企業等の円滑なマッチングを支援している。9月末現在で、同ガイドの掲載事業所を147事業所まで拡充しており、今年度は4月から現在までで3校に社会人講師を派遣した。
- ・ 今後の予定：同ガイド掲載事業所を更に拡充(160事業所目標)し、事業所と学校のマッチングを今後も推進する。

(2) インターンシップ活動の充実

- ・ 「石巻地域版インターンシップに関するガイドライン」に基づくインターンシップ活動を促進している。(事業所・学校が事前にインターンシップについて計画を立て、体験内容等を協議して実施、事後に成果報告会を実施し活動の充実を図るもの。)
- ・ また、同ガイドラインに基づきインターンシップを実施した高校の実例や、宮城県東部地方振興事務所で高校生のインターンシップを受け入れた実例を紹介した。
- ・ 今後の予定：紹介事例以外の高校等への石巻地域版インターンシップ活動の実施呼びかけや、「ガイド」掲載事業所のうち受入を実施していない事業所への今後の受入を呼びかける。

「3 企業と生徒・学生が接する場の提供等、地元就職の促進」

(1) 宮城労働局・石巻公共職業安定所・宮城県主催の合同企業説明会等の開催

- ・ 地域の生徒・学生が、地元の企業を知る機会を設け、地元企業就職に向けた理解醸成を図るため、「高校生のための合同企業説明会」(7月13日)や、「新規高等学校卒業予定者就職面接会」(10月16日)の開催に協力する。

(2) 人材確保・育成・定着に向けた企業支援セミナーの開催

- ・ 地元事業所を対象に、人材の採用・育成・定着の有効な手法を学ぶ企業支援セミナー(6月7日)を開催した。

(3) 小学生の産業学習旅行の実施

- ・ 地元の児童が、地元の産業現場を訪問し理解を深めることで、観光振興と地域の次代を担う人材育成につながるため、女川町(8月2日)で開催し、地元企業の施設見学、作業体験等を実施した。
- ・ 今後の予定：石巻市、東松島市においても、10月から11月にかけて実施予定。

4 就職後の地元定着応援」

(1) 高校生対象「声出し・話し方セミナー」等の開催

- ・ 基本的な聴く姿勢や、初歩的なあいさつを含めたコミュニケーション能力の向上により、就職後の職場定着を促進するもの。挨拶手法や発声練習を行う「声出し・話し方セミナー」、社会人として「聴く」姿勢を学ぶ「コミュニケーション講話」を、それぞれ7月に開催した。
- ・ 今後の予定：年度内に更に2校で、「声出し・話し方セミナー」を開催予定。

(2) 次代を担う産業人材応援事業の実施

- ・ 新入社員・職員に加え、新たに入社3年目の若手や中間層を対象にしたコミュニケーション能力の向上等のセミナーを関係機関と連携し開催した。新入社員研修は5月に、中間層向け研修は7月に開催した。
- ・ 今後の予定：入社半年後のフォローアップ研修として、10月から11月にかけて各々を開催する予定。である

報告事項（3） 就職内定状況について

各高等学校内定率：報告された高校全体における、平成31年3月卒業予定者のうち民間就職希望者の内定状況について、採用選考前・結果待ちを除き10人中9人が内定を得ている模様。

意見交換

一般社団法人みやぎ工業会

- ・ 各高校で取組を努力しているが、高校生が変わりつつあると感じる。夢のなさ、スマホしか興味がない。異性に興味がない。コミュニケーションが取れず、対応方法が分からないので、電話が取れない。事務職・営業職に、教えようにも中々難しい。叱られた経験が乏しく、上司や年配社員から注意を受けると、叱責を受けたと感じ、退職してしまう。働く意義として、社会に役立つ製品・サービスを供給して、結果として給料をいただけるという感覚に繋がっていない。
- ・ 学校や地方振興事務所も努力しているが、企業も変わらねばならないかもしれない。企業では人材育成のプログラムを持っており、段階を得て、主任・課長と昇進していくが、従前のままではならないと考えている。役職に就きたがらない従業員が増えていることでも、困っている。
- ・ また、大人も、ネームバリューだけで考えず、地元に対して目を向けていただければと思う。例えば、ヒト・モノ・カネの3要素が全てない企業でも、経済産業大臣賞を受賞した事例がある。石巻には、このような企業もあることを知ってほしい。

普通高校A

- ・ このような企業側の本音を聞きたかった。企業がどのように人材育成し、そのために学校でどのように育成すべきか。マッチングを今まで考えている。
- ・ 生徒の変化は高校としても感じている。部活動を根気よく継続できない生徒が増えてきている。今後も、企業における人材育成の方針や、悩み事を御教示いただくと非常に参考になる。

宮城県立石巻高等技術専門校

- ・ 本校には、新卒で入校する者が多いが、就職後に新たな技術を身に付けたいという者もいるなど10代だけでなく、20代の入校生もいる。また、高校を卒業して就職したが、職場環境（人間関係・仕事内容）が合わず、半年で退職した者等がいることから、高校の進路指導の先生には高技専も選択肢の一つとして欲しい。
- ・ 就職先に合わなかった場合は、本校等で学び直す選択もあるが、何回も離職を繰り返さないことが大切である。そのため、本校では職業意識を大切にしており、今後、学習する職種で仕事をしていくという指導も併せて行い、職業訓練を実施している。

高校教育課

- ・ 6月14日には、気仙沼・登米地区においても工場見学会が開催された。地元の素晴らしい企業を知らない場合があるので、現場の先生方は自分の目で見て、体験していただければと思う。このような機会を是非活用していただきたい。高校教育課としても先生方の参加について、よろしくお願ひしたい。

一般社団法人みやぎ工業会

- ・ 宮城県内の新規高卒者の離職率は41%と高く、引きこもりも多い。本会としても、いわゆる第2新卒を何とかすくい上げたいが、仕組みが未だにない。県のジョブカフェの動きもよくない。そもそも高校生の総数自体も減少している状態で、離職率が高く、全てが負のスパイラルとなっている。誰かが考えなくてはならないという認識をもっといただきたい。

以上